

[タイム] 南月山(9:15)→左俣中沢下降開始(9:30)→左俣右沢出合(10:30)

不動沢左俣右沢 1992年9月5日

左俣右沢も、左俣中沢と同様、大小の岩が積み重なり、その下を水流が音を立てて流れている。表面の流れは次第に細くなり、やがて消えてしまった。そんな中をなおも登ってゆくと、小さな水の流れが再び現れ、その先に岩壁が立ちはだかり、沢は40mの滝となっている。右手のルンゼを登れば捲けるかと思ったが、単独行ではちょっと登りきるふんざりがつかない。かといって高捲くとなれば、大高捲きとなる。30分ほど偵察していたが、ここより上部はまた何かの機会にすることにして、引き返す。

中沢との出合より下部には、小さなナメと小滝があっただけで、右俣出合へ。

(記・

[タイム] 右沢出合(10:30)→右沢最高到達点(10:40, 11:20)→中俣出合(12:00)

不動沢中俣 1992年9月5日

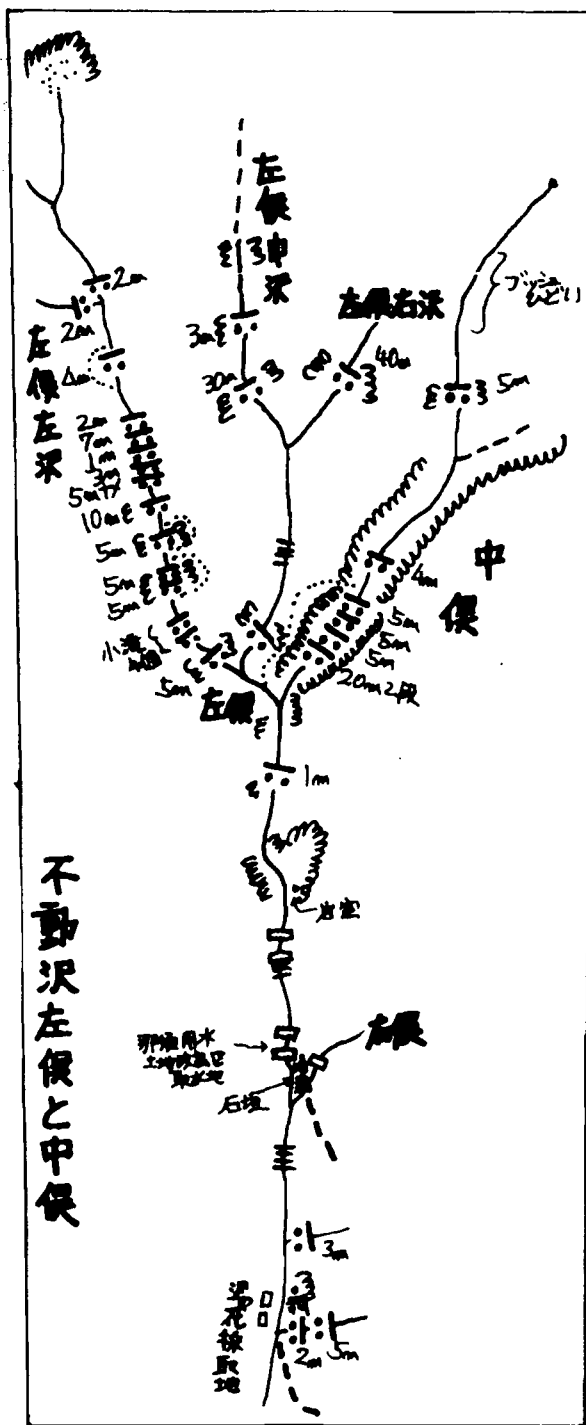
中俣の入口すぐの20m 2段滝は簡単には登れない。右岸から高捲くことにして、左俣にすこし入ってからとりついた。高捲きにはたっぷり50分。ずっと樹林帯の中であったが、一部クマザサが濃い部分があった。高捲きの途中で20m 2段滝の上に5m滝が3つほど観察されたが、この部分の詳細は不明である。

ルンゼの最上端を回り込んでから沢に下る。降り立った先にまた4m滝。ここは右岸のバンドをトラバースするようにして越える。まもなく右岸には岩場がそそりたつようになり、カレ沢が急傾斜で突き上げている。本流には5mの滝。左岸岩櫃に登り、トラバースする感じで滝の上に出る。ここまでが中俣の核心部で、あとは平凡となった。

やがてヤブがかぶさってきた。うるさいヤブをかきわけて進む。まったくヤブこぎ同然である。そのヤブも、次第に薄くなり、パイプが散乱しているあたりに

不動沢左俣中沢

1992年9月5日



南月山の山頂で小休止後、茶臼岳方面に稜線を少し進んでから、不動沢左俣中沢の源頭めざして下降にかかる。最初は砂礫地の中の下り。そしてその次は急斜面の樹林帯である。10分程下ると、尾根と尾根との間の窪みとなるが、なかなか沢の形態をとらない。とにかく一番低い所をたどる。20分程下ると、岩場の上に出る。そこからようやく沢の形態をとりはじめた。

やがて3mの小滝。ブッシュを利用して左岸を下る。左岸から湧水があり、水流が出てきたと思ったら、突然目の前が切れ落ちた。落差30m程の滝となっている。左岸の樹林帯を下る。樹林帯といっても、岩場にへばりついて生えた樹木をたどりながら下るのであって、垂直に近い下りである。最後の5mほどはその樹木もない。幸い、左にトラバースして、傾斜の緩い草付に出ることができた。

このあとは大小の岩が積み重なった所を通る。水流は表面に

現れはしないものの、岩場の下を音を立てて流れている。あちこちに湧水地点があるようである。すぐ左俣左沢出合となる。

(一)